

2009年3月期連結決算
および
業績見通し

2009年4月28日



JFE商事ホールディングス株式会社

目次

- 1 . 2009年3月期連結決算のポイント
 - 2 . 連結損益計算書
 - 3 . 売上高・経常利益推移(連結)
 - 4 . 連結貸借対照表
 - 5 . 連結キャッシュ・フロー計算書
 - 6 . セグメント情報
 - 7 . 2010年3月期 業績及び配当予想
 - 8 . 2010年3月期の取組み課題
 - 9 . 次期中期経営計画の取扱い
- 【参考】優先株の償還と配当の推移**

1. 2009年3月期連結決算のポイント

昨年下期以降の鋼材需要の大幅な減少や市況の悪化を大きく受けたが、上期を中心とした鋼材価格の大幅な上昇、鉄鋼原料・燃料の取扱い増により、売上高はJFE商事(単独)の鉄鋼及び原材料・資機材などが増加し、前期比3,019億円増の2兆7,066億円。

経常利益は、「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用及び営業外で持分法投資利益悪化等により、前期比 2億円減益の390億円。

当期純利益は、特別損益等を加味した結果、前期比 36億円減益の198億円。

2. 連結損益計算書

| 【損益計算書】 | (億円) | | | |
|------------|--------|--------|---------|------|
| | 09年3月期 | 前期 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 27,066 | 24,047 | 3,019 | +13% |
| 売上総利益 | 967 | 913 | 54 | +6% |
| (売上総利益率) | (3.6%) | (3.8%) | (0.2%) | |
| 販売費及び一般管理費 | 565 | 539 | 26 | +5% |
| 営業利益 | 402 | 374 | 28 | +7% |
| 営業外損益 | 12 | 18 | 30 | |
| 経常利益 | 390 | 392 | 2 | 1% |
| 特別損益 | 29 | 10 | 39 | |
| 当期純利益 | 198 | 234 | 36 | 15% |

売上高

| | |
|-----------|----------|
| JFE商事(単独) | +2,517億円 |
| ・鉄鋼 | +934 |
| ・原材料・資機材 | +1,583 |
| 建材・鋼管分社3社 | +378億円 |
| 国内子会社 | +412億円 |
| 海外子会社 | +226億円 |
| 分割3社 | 170億円 |
| 連結修正 | 344億円 |

売上総利益

| | |
|-------|---------|
| JFE商事 | 3億円 |
| 国内子会社 | +13億円 |
| 海外子会社 | +45億円 等 |

販売費及び一般管理費

減価償却費、人件費の増 等

営業外損益

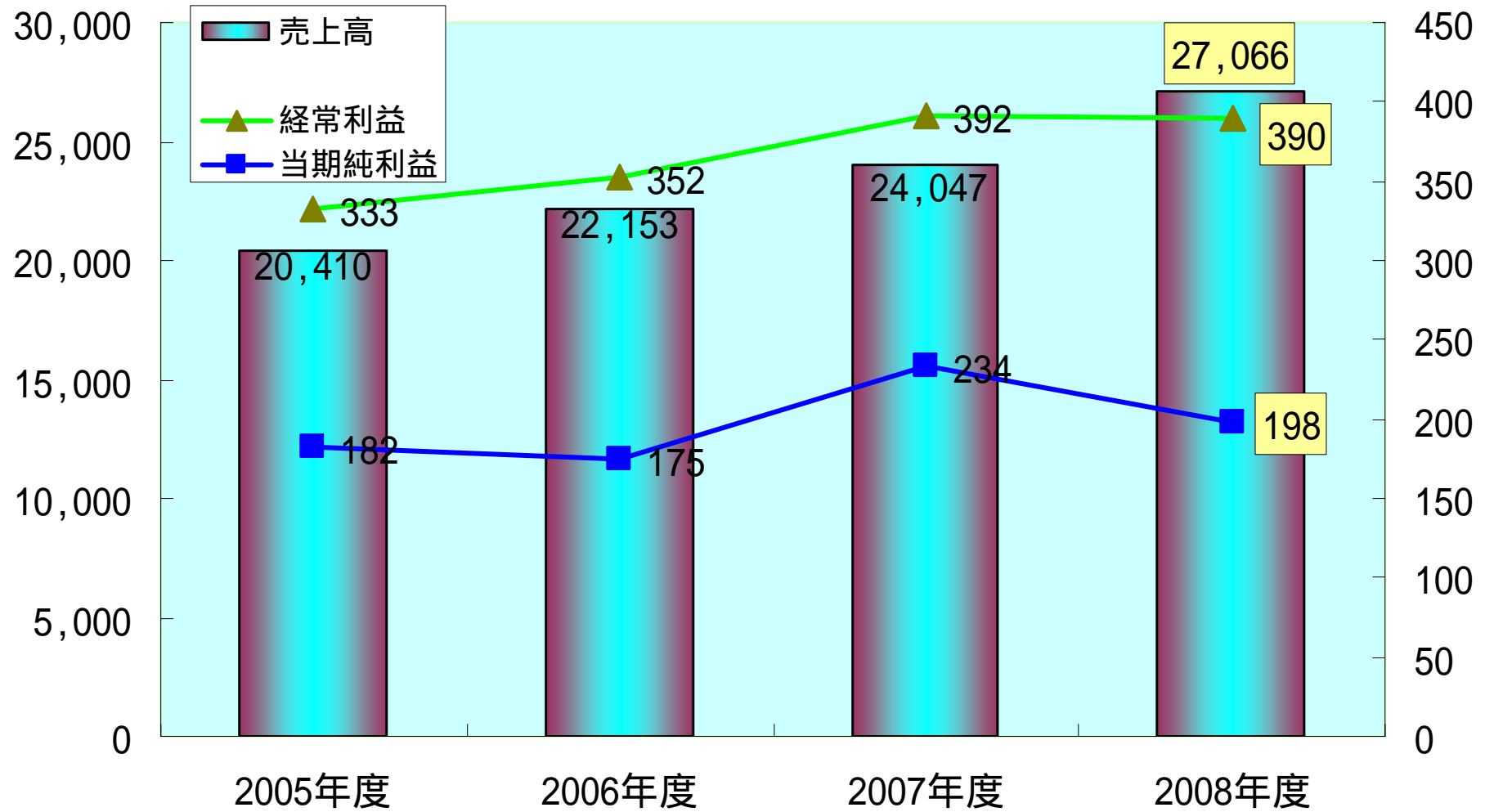
持分法投資利益の悪化 等

特別損失

投資有価証券評価損
棚卸資産評価損、固定資産減損損失 等

3. 売上高・経常利益推移(連結)

(億円)



4. 連結貸借対照表

(億円)

| 【貸借対照表】 | 09年3月末 | 前年度末 | 増減額 | 増減の主な内訳 |
|------------------|--------|-------|--------|--|
| 総資産 | 6,355 | 6,564 | 209 | 現預金 : + 352 投資有価証券 : 81 売上債権 : 602 棚卸資産 : + 144 |
| 純資産 | 1,147 | 1,172 | 25 | 利益剰余金 : + 106 (利益+198、配当 41、自己株消却 51) 評価換算差額等 : 131 (株式 52、為替 79) |
| 有利子負債 | 1,478 | 964 | 514 | J商 : + 538 (借入+608、CP 70) 海外CC : + 33 為替変動影響 : 70 他 |
| 有利子負債倍率 (DER) | 1.36倍 | 0.87倍 | +0.49倍 | 有利子負債 ÷ (純資産 - 少数株主持分) |
| 自己資本比率 | 17.1% | 17.0% | +0.1% | (純資産 - 少数株主持分) ÷ 総資産 |

5. 連結キャッシュ・フロー計算書



(億円)

| 【キャッシュ・フロー計算書】 | 09年3月末 | 主な内訳 |
|----------------------|--------|--|
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 18 | 税前利益 + 361、減価償却費 + 59、営業債権債務 72 在庫の増 199、税金の支払・還付 185 他 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | 122 | 固定資産の取得 97 (栃木シャーリング 28、J商 25、江蘇川電 5他) 株式取得 38 |
| フリー・キャッシュフロー | 104 | |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 479 | 借入 + 654、CP 70、自己株式の取得 51、配当 41 他 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 375 | (現金及び現金同等物の換算差 22を除く) |

6. セグメント情報 (鉄鋼および鉄鋼周辺)

(億円)

| セグメント | 売上高 | | | 営業利益 | | |
|---------|--------|--------|--------|-------|-----|-----|
| | 09.3期 | 前期 | 増減額 | 09.3期 | 前期 | 増減額 |
| 鉄鋼、鉄鋼周辺 | 26,664 | 23,470 | +3,194 | 401 | 369 | +32 |

【JFE商事】

+ 1 億円

国内鉄鋼

数量 980千トン、価格 + 21.4千円/トン

鉄鋼貿易

数量 764千トン、価格 + 301ドル/トン、(為替 116円 101円)

原材料

原料価格高騰で増収も、低価法影響等で減益。

【グループ会社】

+ 23 億円

国内子会社

17 億円

海外子会社

+ 40 億円 (内、石炭投資会社 + 28 億円)

* その他連結修正+8億円

08年度実施の施策(抜粋)

JFE甲南スチールセンターの系列化

中国のコイルセンターの拡張及び設備増強

JFE商事テールワンの設立

(江蘇川電、浙江川電)

栃木シャーリングの移転・拡張

ドバイ支店の開設

JFE商事鉄鋼建材とJFE商事フロアシステムの統合

スクラップヤード新設(千葉・名古屋・大阪)

6. セグメント情報 (鉄鋼以外)



(億円)

| セグメント | 売上高 | | | 営業利益 | | | 主な内訳 |
|-------|-------|-----|-----|-------|----|-----|--|
| | 09.3期 | 前期 | 増減額 | 09.3期 | 前期 | 増減額 | |
| 食品 | 302 | 414 | 112 | 4 | 3 | +1 | 水産物在庫取引からの撤退や中国産食品に対する消費者の買い控え影響により売上高は減少。 第3のビール「プライムドラフト」や発売60周年のコンビーフの数量増、米国や中近東・アフリカ地域における「GEISHA」缶詰の取引拡大により増益。 |
| 半導体 | 95 | 152 | 57 | 1 | 3 | 2 | デジタルカメラ向け半導体取引減少や市況悪化により減収減益。 |
| 不動産 | 5 | 11 | 6 | 4 | 1 | 3 | 保有不動産の早期売却に取り組む。 |

7. 2010年3月期 業績及び配当予想

【概要】

鉄鋼業界においては、鋼材需要は依然低水準で推移し、年央以降、自動車・産業機械を中心とした製造業における在庫水準が一巡し、需要は緩やかに回復していくが、本格的回復には更なる期間を要すると思われる。市況も国内外ともに下落基調が続くと予想。

次期の連結業績見通しは、取扱数量の減少や鋼材価格下落の影響を大きく受けると予想し、売上高1兆7,200億円、営業利益160億円、経常利益150億円、当期純利益90億円を見込む。

配当は、株主への継続的な利益還元について留意し、1株当たり5円の年間配当を予定。

事業収益による内部留保の充実や安定した財務基盤の確立に努めてきたことにより、A種優先株式の一括償却が可能な財務状態となり、一括償還に備え取得積立金(185億円)を積み立てる予定。

7. 2010年3月期 業績及び配当予想

(億円)

| 通期連結業績 | 10.3期 予想 | 09.3期 実績 | 増減額 | 増減率 |
|--------|-------------|-------------|-------|-----|
| 売上高 | 17,200 | 27,066 | 9,866 | 36% |
| 営業利益 | 160 | 402 | 242 | 60% |
| 経常利益 | 150 | 390 | 240 | 62% |
| 当期純利益 | 90 | 198 | 108 | 55% |

| | | |
|------------------|----|-----|
| 1株当たり配当 (普通株) | 5円 | 10円 |
|------------------|----|-----|

8. 2010年3月期の取組み課題

収益拡大

拡販及び経費の削減の実施

新システム「J Beat」活用による収益性・効率性の改善

カテゴリー別収益管理の活用を進め、個々の取引の収益性・効率性を高める

企業体質の強化

業務改革運動「J SLIM」の推進

従来の手法や先入観にとらわれず、仕事のやり方を根本的に見直し

仕事の効率性・生産性の向上に繋げる

人材の育成

リスク管理強化

在庫の圧縮、資金の効率的活用

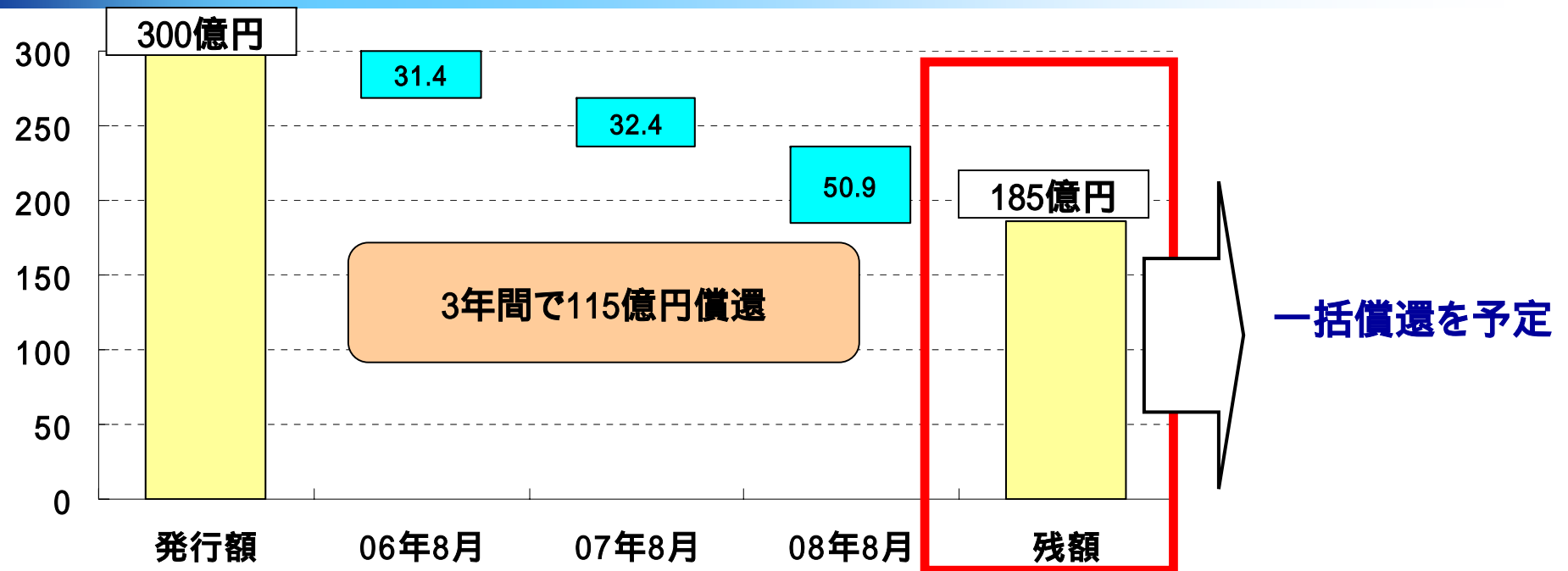
9. 次期中期経営計画の取扱い

昨年6月より、当社グループの『第二次中期経営計画(09～11年度)』の策定を進め、中期経営ビジョンおよび重点課題の整理を行い、次の成長ステージに向けた骨子は作成しましたが、未曾有の大不況で先の読めない状況であるため、数値の公表は見合わせます。

重点課題につきましては、09年度計画と関連性のある課題を優先に、具体的課題への取り組みを進めます。

計数目標は、単年度計画として管理していきます。

【参考】優先株の償還と配当の推移



| | 06年度 | 07年度 | 08年度 | 09年度(予定) |
|----------------|-------|-------|-------|----------|
| 配当(普通株) | 7円 | 10円 | 10円 | 5円 |
| 配当性向(普通株) | 9.7% | 10.3% | 12.1% | 13.1% |
| 配当性向(優先株配当を含む) | 11.5% | 11.9% | 13.7% | |



JFE

* 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって見通しと異なる場合があります。